

花

センターだより

緑

2009・7
9号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

兵庫県の風土を活かした庭づくり

第1回 生活の場としての庭

兵庫県立淡路景観園芸学校

主任景観園芸専門員 能勢 健吉

兵庫県は温帯地方にある。冬でも温暖で雨量も樹木が生い茂るほどに降ってくれる自然の恩恵の多い場所である。そんな場所柄か、最近、庭での生活を楽しみたいという要求が増えている。個人の生活の場所としての庭、地域とのつながりを持った庭など新しい動きが幾つかあるが、今回は生活の場としての庭を説明する。

最近、戸外室の需要が増えている。戸外室は屋根のない部屋のことです。プライバシーを守れる空間でもある。一例としてウッドデッキはご存じでしょうか。板張り甲板と訳すのでしょうか。板張りのテラスで椅子を置いたり寝転がったりできるものをいう。壁の代わりに生垣を植えたり、トレリスで部分的な目隠しを作ったりして寛ぎの場所を作る。床の代わりに芝を張ったり、デッキにしたりする。また、食事の為にテーブルと椅子を置き食事の場所ともなる。夜間利用のためには照明装置を設える。庭なのでやはり植物が楽しめる場所でありたい。

コンテナ植えの草花、壁面を飾るツル性植物、木陰をつくる緑陰樹、北風を遮る生垣などこれらに具体的な植物をあてはめると自分の居心地のいい戸外のリビング兼キッチンが出来上がる。

もう一部屋増えた我が家の暮らしである。



チェルシーフラワーショー2001の戸外室 目隠しは省かれている



壁面を飾るツル性植物 —ハゴロモジャスミン—



イギリス・ブレイズハムレット 公共広場とプライベートな家周り

県民の緑のまちづくり活動を支援する ～県民まちなみ緑化事業～

兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課

1 県民まちなみ緑化事業とは

まちなかを彩る花や緑は、私たちの暮らしに潤いとやすらぎを与えてくれるとともに、美しい景観形成や安全で快適なまちづくりに大きな役割を果たしています。

兵庫県では、こうした緑の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、平成18年4月に「県民緑税」を導入し、この税を財源として、「県民まちなみ緑化事業」を展開しています。

この事業は、都市地域の防災機能の向上や環境の改善等を図るため、県民のみなさんが公園や学校、住宅地などで行う緑化のほか、まとまった面積の緑化が可能な土地所有者が行う樹木を中心とした緑化に対して、苗木等の購入や緑地整備の補助を行うものです。

県民のみなさんには、造園業者等からの苗木や肥料等の購入、植栽活動、植栽後の維持管理活動を行ってまいります。

このように、県民税均等割の超過課税を活用し、県民のみなさんの参画と協働により都市緑化を推進する取組みは、全国に先駆けた施策となっています。



公園における植樹(伊丹市)

《事業の概要》

- (1) 対象地域：市街化区域、用途地域が定められた区域など（校庭の芝生化は県下全域が対象）
- (2) 対象者：自治会、PTA等の各種団体など
- (3) 補助対象：以下の3つに分かれます。
 - ・ 防災緑化・・・避難空間の安全性の向上や延焼拡大の防止を図るため、火災に強い樹種による緑化活動に対して助成を行う。
 - ・ 環境緑化・・・環境の改善や、周辺地域の美しい景観との調和を図るため、樹木や芝生による緑化活動に対して助成を行う。
 - ・ 修景緑化・・・地域環境を著しく害する土地の修景を図るため、樹木による緑化活動に対して助成を行う。
- (4) 補助内容：苗木等の購入は100万円、土壌改良等を伴う場合は500万円など

2 平成20年度の補助実績

平成20年度には、合計202件の緑化活動を支援し、学校・公園等では約9万6千本の植樹が、



駐車場の芝生化(姫路市)





駐車場・校庭等では約3.4haの芝生化が行われました。県内各地で緑とコミュニティを育む取り組みの輪が広がり、学校や公園など地域の身近な場所で住民団体等による緑化が着実に進められています。

校庭の芝生化を行った関係者からは、「芝がクッションとなってケガが減り、子供たちも活発に遊ぶようになった」、「芝生化してすぐに小さな昆虫も見られるようになり、環境学習の場としても役に立っている」といった声が聞かれるなど、県民まちなみ緑化事業は県内各地で大きな反響を呼んでいます。



団地斜面地の緑化(川西市)



校庭の芝生化(姫路市)

3 平成21年度 県民まちなみ緑化事業の募集

平成21年度は、4月1日(水)から9月30日(水)までの期間、「苗木等購入費、植栽帯、生垣、校庭の芝生化」の募集を行っています。

なお、「駐車場の芝生化、建築物の屋上緑化・壁面緑化」については、応募多数のため、6月15日(月)をもって、募集を終了しました。

《募集概要》

(1) 募集期間：平成21年4月1日(水)～平成21年9月30日(水)

(2) 申請方法：

・苗木等購入費、植栽帯、生垣、校庭の芝生化

所定の申請書及び添付書類を先着順で受け付けます。

注) 募集期間内であっても予定額を超えようとする時点で締め切ります。

(3) 申請書類等の提出先：

・補助金交付申請書－各市町の都市緑化担当課

募集案内、申請書類等は上記提出先で入手できます。また、兵庫県のホームページからもダウンロードできます。

ホームページアドレス http://web.pref.hyogo.lg.jp/wd20/wd20_000000005.html

(4) 問い合わせ先

兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課緑化政策係

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

TEL：078-341-7711(内線2757) FAX：078-362-9487



兵庫県下のガーデンクラブ

大池橋ミニバラ公園グループ

代表 三上 三千郎

○発足の経緯

平成16年の初め雑草の生い茂った中にバラが植えられているのに気づき、開花を楽しみにしていましたが、ほとんど咲きませんでした。そこで近所の有志の方16人と相談し、伊丹市の担当課や緑化協会に交渉の末、管理協定を結びました。

この花壇は平成3年「花の道」として作られ、修景バラや宿根バーベナ、アークトセカ等々が咲き乱れていた



バラ(春風)の剪定作業

そうですが、阪神大震災で壊滅。その後補修され今日に至ったようです。初年度は153㎡の花壇だけでしたが、天神川の法面にも花を植え付けることを考えまし

た。天神川にかかる「大池橋」の両岸300㎡にわたった花壇計画です。

○活動内容

活動条件が悪く、しかも広大な花壇をローコストローメンテナンスで装飾効果の高いものにしていくため、『灌水をせず、無農薬で育てる事』を基本にし、その実現のために徹底した草取りで乗り切っています。

昨年は「2008ガーデンコンペ・ひょうご（花壇写真部門）」で兵庫県知事賞（最優秀賞）を受賞することが出来ました。

これから全員でさらに内容を充実し見ごたえのある公園にして行こうと思います。



花の中の草取り作業

AGN加古川

代表 十倉 茂明

○発足の経緯

2001年7月に7名のメンバーで『花と緑のまちづくり』を旨として立ち上げました。市役所から花苗の提供を受け、メンバーがデザインしたコンテナをJR加古川駅前商店街に設置したのが活動のスタートでした。

○活動内容

市民や他の花緑グループを対象にした講演会や講習会、日岡山公園の樹木ウォッチング、リースづくりなどを開催しています。



苔玉作りの指導
—加古川市民団体連絡協議会主催行事にて—

他団体との友好・交流も図っています。市においては、加古川ボランティア協議会に所属。市主催の「花と緑のフェスティバル」に参加しています。県においては東播磨地区のボランティア団体「かこむ倶楽部」に所属。「2008ひょうごまちなみガーデンショー」で

は、奨励賞を受賞しました。

また淡路景観園芸学校の勉強会には極力参加しスキルアップを心がけるとともに、同校のまちづくりガーデナー体験コースが加古川市で2回開催された際には協力をし、その卒業ガーデナーは70名になっています。NPO法人AGN(アルファグリーンネット)本部へも代々役員を派遣し、中央からの情報をキャッチするよう努めています。

現在16名という少数で運営していますが、『まちづくりを、経済性優先のものではない、自然や風土を見つめ直し、新しい社会における人々の豊かな暮らしのあり



「2008ひょうごまちなみガーデンショー」
奨励賞受賞のメンバー

方を創造する文化的行為として位置づける」という固有のミッションだけは持ち続けたいと考えています。

中播磨ハートフルネット

代表 澤田 芳昭

○活動内容

活動のきっかけは、2003年夏の福崎町での1件のオープンガーデンの開催です。その後気候風土が大きく異なる瀬戸内から県中北部にわたる地に花の回廊を作りたいという沿道ガーデナーたちの思いを集めて、中播磨地区としてオープンガーデンを開催して今春で4回目となります。訪れた方々に、庭の花木や周りの自生植物を通して、季節の移ろいを味わって頂いています。

一方、一昨年秋より花の育苗も始めました。病院、デイサービスセンターより来園される方



総会・研修会

達がおられ、お返しに花苗を施設に贈ろうということがきっかけでした。

また幼稚園や小学校には、子どもたちの情操教育のために今春は6,000鉢の花苗を贈り、県知事よりみどりの賞を頂きました。



ローズガーデンコンサート

○今後の取り組み

中播磨地域は、田園や山に囲まれた安らぎと憩いのガーデンが多く、この環境を活かし、リハビリ中の方々の社会復帰を支援できるヒーリング施設を備えたガーデンづくりをも手がけたいと考えています。また中播磨地区にオープンガーデナーを中心としたまちづくりの核が各地に誕生していますが、これを中心として、地域ぐるみの「里山コミュニティガーデン」へのアプローチをこの秋から始めます。

あわじオープンガーデン実行委員会

代表 嶋 一史

○活動内容

淡路創造大学の修了生20名が中心となり2002年4月に設立しました。

その年の第1回は“花も心も豊かで美しく”がテーマ。訪れた人々と心温まる時間を持ち、花緑の情報交換、ガーデニングの知識や技術面での交流を深めることができました。

第2回は“ダンゴも食べてください”おもてなしは花だけ、ダンゴだけでも十分でないことを私たちは知っています。地元の美味しいものを厳選し、食べて頂くイベントも実施しました。



周年見学可能なギャラリー併設のお庭

2007年は、のじぎく国体に合わせ「はばたんフォーラム・オープンガーデン」を実施。この年から秋のオープンガーデンも開催することとなりました。

今年は、オープンガーデンとともに淡路島のいい所も一緒に訪れて欲しいとマップに掲載しました。オープンガーデンが終わると、実行委員とガーデナーさんで交流会をもちます。この時プロジェクターを使ってそれぞれのお宅を拝見。他地域のオープンガーデンバスツアーも楽しめます。

私たちメンバーは、他の地域の場合と違ってガーデナーさんだけでは「ない」のが特徴で、地域の活性化を目指しています。17邸のガーデナーで始めたオープンガーデンも今では技術向上し、62邸が公開。淡路島の緑美しい借景もうまく取り入れお庭づくりを楽しんでいます。



オープンガーデンとハマコーラス

シンビジュームのハダニ防除について

Q シンビジュームの葉の裏に、小さな虫が付いています。葉も少し白っぽくなったようです。

A シンビジュームは夏になり、高温になるとハダニが付きやすくなります。お尋ねの虫は、ハダニ（俗に赤い色のダニはアカダニとも呼ばれます）と思われる。ハダニにも多くの種類があるのですが、葉の裏に付き樹液を吸い植物を弱らせます。アブラムシやアオムシ類を殺す殺虫剤では死にません。ダニ剤と呼ばれるダニ類用の殺虫剤を使用します。ダニ類は世代交代が早く次々と子供が生まれるため薬剤に対する抵抗性が付きやすいので、違うタイプの薬を何種類かローテーションを作って使用するようにします。

葉が良く効いたかどうか、1～2日後によく見て確認し、死んでいない場合は次の薬剤を使用します。また、ハダニは水がかかることも嫌いますので、朝夕、葉水を葉裏にかけてやるとダニの繁殖を抑えることが出来ます。



バラの夏季剪定

Q バラの花後の剪定を繰り返していましたが樹高が高くなったので、秋に向けての剪定方法を教えてください。

A 秋のバラの開花を左右する剪定です。8月下旬から9月上旬に行うと、40～50日で開花します。冷涼な地方は早く、暖かい地方は遅くします。10月中旬に咲かせるのが理想的です。9月の気温予想を聞いて切る時期を調節します。気温の高い場合は剪定時期を遅らせます。各品種を揃って咲かせるには、品種の早晩により剪定日を調節します。

剪定の位置は、今年出た枝の2番枝の下方の外側を向いた芽を残して切りますが、葉が付いている芽を残します。葉がひどく落葉していると剪定位置に苦労しますが、葉を残さず剪定すると、樹勢が極端に落ちますので、葉を残すことが大切です。夏に黒星病で葉が無くならないよう、予防に努めます。また、内陸部にお住まいの方は、ベト病の発生に注意し、予防に努めましょう。



●●● 季節の園芸相談 ●●●

相談員 山田 益男

木立ペゴニアの夏季の管理

Q 木立性ペゴニアの葉が緑色から退色し色が薄くなって来たのですが、どのようにしたらいいですか。

A 木立性ペゴニアの葉が退色した原因は2つ考えられます。ひとつは、肥料分が不足すると葉緑素を作る元素が不足して葉緑素が作られず緑色が退色する場合です。この時は、市販の液肥を1000倍程度に薄め週に1回程度灌水代わりに施せば、緑は回復します。ふたつ目は、葉焼けによる退色です。木立性ペゴニアは、強い日差しは苦手です。特に夏の強い直射日光に当てると日焼け（脱水症状：葉の気孔から出る水蒸気の補給水として根から吸収される水の補給が足りない場合に発生します）をおこします。

夏は遮光幕などで、日中の光を1/3から1/4に(60～75%遮光)に少なくします。



(財)兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター

**** 園芸相談コーナー ****

草花・花木など
花と緑のことならなんでもご相談をお受けします。写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

Tel 078 (918) 2405
10:00～16:00 (年中無休)
Fax 078 (919) 5186
Eメールアドレス：
info_midori@hyogopark.com



センター長のひとり言

～おかやまキッズ緑のまちづくりフォーラムに参加して～



(財)兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎

先般、岡山市で開催された全国都市緑化おかやまフェア会場で「おかやまキッズ緑のまちづくりフォーラム」に参加する機会を得た。未来を担う子どもたちの「まち」に対する思いやアイデアを大人たちに伝え、緑のまちづくり活動に反映させることを目的としたものである。フォーラムに先立ち、多くの小学生が参加して、まちづくりワークショップを実施し、子どもたちが住みたいと思うまちについて意見を出し合い、設計図にまとめ、それをもとに段ボールでまちの模型を作り上げた。

フォーラムでは、その設計図と模型を基に、子どもたちが住みたいまちへの思いを発表し、会場の大人と一緒に、これからのまちづくりを語り合い、最後に「水と緑のまちづくりキッズおかやま宣言2009」を満場一致で採択した。

このフォーラムでは、印象に残ったことが2つあった。一つは、子どもたちのつくった理想のまちには、必ず動物や鳥や昆虫などの生き物(いのち)の存在があったことである。私たち大人は、景観面、機能面などに、より気をとられる傾向がある。難しく言えば、「生物多様性の確保」。子どもたちが気づかせてくれた、この大切な価値観を今後のまちづくりに活かしていかなければならない。

もう一つは、参加した大人たちの話から得たことである。子ども時代に自然のなかで思いきり楽しく遊んだ原体験を持つ者は、次の世代にも同じ体験をさせてあげたいと強く願っていることである。現在、「自然とのふれあい」

「遊び」に制約を受けている子どもたちにも、自然の中でのびのび、わくわく遊べる日常的な環境を、「まちのなか」につくることが、幸せな子ども時代を持続的につくっていくことに寄与するのである。そして、そのような遊びは、人に「生きる力」を与え『センス・オブ・ワンダー』*つまり五感にあふれた心豊かな人を育むのである。

私たち大人は、子どもの視線で、まちのあるべき姿を考えて、花と緑のまちづくりや公園づくりに取り組んでいく義務がある。



*レイチェル・カーソン女史の著作に由来する言葉で、自然などからある種の不思議さを感じとる感性を指す



花ごよみ



	花名	7月	8月	9月
甲山森林公園	サルスベリ		●	●
	ショウブ	●	●	
	ノリウツギ		●	●
	ツクシハギ		●	●
	ミンハギ	●	●	
	ハンゲショウ	●	●	●
フラワーセンター	サルビア		●	
	バーベナ		●	
	ジニア		●	
	ナツツバキ	●	●	
	マリーゴールド		●	●
北播磨余暇村公園	ムクゲ	●	●	●
	クチナシ	●	●	
	サルスベリ	●	●	●
	ハギ	●	●	●

	花名	7月	8月	9月
一庫公園	ナツツバキ	●		
	ネムノキ	●	●	
	ナツフジ	●	●	
	カリガネソウ	●	●	
	マルバハギ			●
	ムラサキシキブ類(実)			●
有馬富士公園	ナツズイセン	●	●	
明石公園	アメリカデイコ	●	●	●
	スイレン	●	●	●
西猪名公園	ヘメロカリス	●	●	
	クチナシ	●	●	
	サルスベリ	●	●	●
播磨中央公園	イリオモテアサガオ		●	
	ポーチュラカ	●	●	●
	マリーゴールド	●	●	●

～ 編集後記 ～

「センター長のひとり言」に登場したレイチェル・カーソンは、女性の海洋生物学者で、その著書『沈黙の春』は、その啓示的なタイトルからも推察できるように、農薬や殺虫剤に関する環境破壊の古典的な警告の書です。執筆から40年以上たった今、社会はどのように変わったのでしょうか。花や緑にかかわっておられる方は、日々環境の変化を敏感に感じとられていることでしょう。

それぞれの立場での損得のがんじがらめで歪んでしまった人間たちのエコ政策をよそに、生き物たちは、シンプルに私たちにメッセージを送り続けていることでしょう。その声に真摯に耳を傾けなければ、と感じます。